

令和3年9月7日

養父市議会議長 西 田 雄 一 様

養父市新文化会館整備事業等特別委員会  
委員長 植 村 和 好

養父市新文化会館整備事業等特別委員会中間報告書

本特別委員会において調査したことを、次のとおり中間報告する。

記

- 1 調査年月日 令和3年8月4日（水）
- 2 調査事項 養父市文化会館（仮称）整備事業等の進捗状況について
  - （1） やぶ市民交流広場（YBファブ）の進捗状況について
  - （2） 市道宮越諏訪町線ほか周辺市道整備事業及び旧グンゼ事務所棟・宿泊棟活用事業の進捗状況について
- 3 調査内容

やぶ市民交流広場（YBファブ）と周辺整備事業の令和3年7月末での進捗状況と今後の予定について、市民生活部及びまち整備部から現地において説明を受け調査を行った。

  - （1） やぶ市民交流広場（YBファブ）の進捗状況について

建物本体工事は令和3年6月末に完了し、7月21日に引き渡しを終え、施設の管理は施工業者から市に移管している。付帯工事として別途発注した植栽工事もおおむね完了し、天候の状況を見ながら施工業者が散水養生等を行っている。今後の予定は、舞台装置、情報通信設備、什器備品等の設置を8月13日に終え、8月末には引っ越し作業を完了し9月1日には新施設内に事務所を設置予定である。その後、見学会を行い9月12日の開館記念式典でグランドオープンを予定している。9月14日から許可する施設使用の申込受付を7月1日に開始しており、諸団体はじめ多くの市民から申し込みを受けている。

アートクリエイトチーム（YBact）は市内4ホールの鑑賞事業を提案する組織で、市民公募には定員を超える応募者があり、選考会を予定している。

開館記念事業として、一流アーティストによる音楽・芸能公演のほか、ハーベストフェスティバル（屋外イベント）など多彩なイベントを予定しているが、コロナ禍でのイベント開催であり、中止・延期など状況に応じた見直しも想定している。

やぶ市民交流広場の完成後に八鹿文化会館・八鹿公民館解体工事を予定しているが、ワクチン集団接種会場として利用していることから、着工は当業務終了後となり、完了は次年度になる見込みである。

(2) 市道宮越諏訪町線ほか周辺市道整備事業及び旧グンゼ事務所棟・宿泊棟活用事業の進捗状況について

市道宮越諏訪町線ほか周辺市道整備工事は完了し、既に供用を開始している。市道宮越諏訪町線の延伸部分は3月に完成しているが、本体工事やグンゼ事務所棟・宿泊棟などの最終仕上げ工事もあり一般に供用はしていない。前回調査で歩道安全柵の必要性を指摘したが、今回の調査で担当部局より安全柵設置の方向で進めているとの報告があった。

旧グンゼ事務所棟・宿泊棟活性化事業は2期工事も含め完了している。軽食のテイクアウトを行う事業者を再募集し、複数の応募の中から優先交渉権者を決定した。

(まとめ)

やぶ市民交流広場（YBファブ）が完成を迎える。今後は養父市の文化芸術の拠点として市全域の活性化につながる中長期的な計画が必要である。

青柳いづみこ氏の芸術監督就任と市民と有識者からなるアートクリエイティブチームにより、新たな協働による芸術文化の発展が期待される。これにあわせ職員・スタッフ等実施体制の充実も必要となる。

やぶ市民交流広場は4つの機能を持つ複合施設であり、その利点を十分に発揮させるためにも、市民の意見聴取を継続的に行い、地域活性化の拠点として機能強化と刷新を常に図る必要がある。市民参画の一つとして、ホールのボランティアスタッフは30名を超える協力がある。また、図書館機能をより高めていくための協議の場となる図書館協議会を早急に確立する必要がある。公民館施設等の利用申込は多くあり、図書館と共に利用しやすい運営により各機能の活用に努められたい。また、幼児や学生に向けた利用案内を乳幼児施設や学校を通じて行うなど、有効なPR活動も必要である。

施設の維持管理については、ランニングコストを試算して予算を計画的に計上し、効率的な運営に努められたい。

八鹿文化会館等の解体については内部空間の大きい建物であり、アスベストの撤去も含め高度な技術と施工管理が求められる。市役所来庁者の往来や民家も近く、安全管理には万全の対策を求める。

やぶ市民交流広場（Y Bファブ）の全容が明らかになり、新しい施設の完成に市民の期待も高まっている。新たに整備された歩道では、幼児の手をひく親子連れの姿や学生の往来が見られ、朝夕には散歩やランニング等、幅広い世代で利用されており、周辺には活性化の気運と共に活気が戻りつつある。ここから生まれるであろう新たな活力を期待する。